

第3回恵那市福祉センターあり方検討委員会 会議録

日時：令和7年10月24日（金）1時30分から

場所：岩村福祉センター 2階 集団指導室

1. 施設見学

- 明智福祉センター
- 串原福祉センター
- 岩村福祉センター

2. 委員長あいさつ

3. 議事

（1）第1回委員会意見の集約

- ① 方針・方向性に関すること
- ② 機能に関すること
- ③ 恵南エリアに関すること

（2）管外視察・恵南地区福祉センター見学 意見・感想

4. 閉会

出席者（13名）

欠席者（3名）

1. 施設見学

- 明智福祉センター見学 13 : 50～
- 串原福祉センター見学 14 : 30～
- 岩村福祉センター見学 15 : 30～

2. 委員長あいさつ

■ 委員長

皆様お疲れ様でした。

恵南地区の拝見し、改めて恵那も広いと感じた。

先ほどデイサービスセンター等見学し、各委員より感想など、後ほど伺いたい。

3. 議事

■ 委員長

議事進行する。

(1) 第 1 回委員会意見の集約、(2) 管外視察・恵南地区福祉センター見学意見感想について併せて事務局に説明を求める。

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■ 委員長

今回見学した施設についても次回、同じようにまとめていただけますか。

■ 事務局

了解した。

■ 委員長

前回、関市、瑞穂市を見学していただいて、また今回見学していただいて、今後私たちに課せられている恵那の福祉センター、恵南の福祉センターをどのように見直していくのかの検討ですが、皆様から自由に意見をいただきたい。

お配りした資料に私が作成した資料がございます。これは、関市と瑞穂市を見学してみても、センターには大体 4 つくらいの機能を持っているのではないかと思います。

1 つ目は「交流・居場所拠点」これは、子育て支援、託児所、ひきこもり・不登校の交流、認知症・高齢者サロン、障がい者交流、住民交流・憩いの場といった様々な方々の交

流、居場所の拠点。

2つ目には「健康・生きがい拠点」として、教養・福祉講座、介護予防教室、サークル活動、地域活動・ボランティア活動、準備室という住民の皆様の介護予防や生きがいの場とした機能。

3つ目には「居宅生活支援拠点」として、総合相談窓口、居宅介護事業所（ケアマネジメント）、ヘルパーステーション、デイサービスセンターなど、居宅サービスを展開する拠点。

4つ目には「災害拠点」。災害支援拠点、福祉避難所。

今後、恵那の福祉センターを考えていくうえで、どのような機能が必要なのか、併せて3箇所の恵那の福祉センターでは何を残していくのか、あるいは充実していくのかを検討する参考にと資料作成しました。この資料も参考にしながらご意見をいただきたい。

■ 委員

前回視察した、関市、瑞穂市、恵那市を考えると、瑞穂市は非常に狭い市の面積であり、尚且つ平地であるため、交通の便もよく移動がしやすいため中央集中型の施設が意味を成す。しかし、恵那市では今日の移動でも市街地から10 km以上離れており、高齢者が市街地までどのような手段で移動ができるかを考えると、地域に小規模な施設が必要。小規模施設のメリットは、地域に設置することで移動が少ない、また職員とコミュニケーションがとりやすく、地域に溶け込みやすい。一方、恵那市のメインの拠点に求められるものは、それなりの機能が充実したもので、市民が安心できるものではないか。

■ 委員

考え方として、人間でいう脳にあたる部分の拠点、手足にあたる部分の拠点を作っていく。或いはサテライトのような拠点を作る。瑞穂市のような1箇所に集中するのは、恵那市の現状にそぐわないと考える。ただし、1つ1つの福祉センターが同じ機能を有する必要はなく、地域の状況に適した機能を残し、中心となるものを大井長島地区に設置が望ましい。

■ 副委員長

旧恵那市には福祉センターが無い。この地域の方々は現状どのように福祉センター的なサービスを受けているのか伺いたい。それによって恵南地区の参考になるのでは。

■ 委員長

今のご意見は、既存福祉センター以外にも、必要な地域があるのではということか。

■副委員長

今の恵那市ではなく、旧恵那市 8 地域（大井町、長島町、東野、三郷町、武並町、笠置町、中野方町、飯地町）の合併における話。

■委員

先ほどの意見について、中野方町では地域自治区が中心となって「NPO 法人まめに暮らそまい会」という組織を発足し、活動している。事業内容は生きがい教室的な活動。このように地域の中の一地区が担っている場合もある。事業に無いデイサービスは、民間の事業所を利用している。

旧恵那の場合は、民間のデイサービスが多く、地域の方は、民間を利用している。福祉センターで行っているのは、民間事業所が少ないため実施していた。昨今は民間事業所も増えつつある。

■委員

三郷町には「みさと愛の会」という一般社団法人がある。みさと愛の会では、高齢者暮らしの手伝い事業、介護予防事業、学童保育などを実施し、三郷町の福祉全体を担っている。介護認定受けた方々は、（同地域内の）明日香苑のデイサービスに通所している。また、明日香苑には軽費老人ホームもあり、入居者の中には、みさと愛の会へ健康活動として通所している方もいる。

大井町、長島町は、福祉センターが担っているが、他の 6 地域では、それぞれの地域でそれぞれに考えている。仮に恵那市の中心に新たに福祉センターが出来たとしても、6 地域からの利用は少ないのでは。

■委員

この委員会では、既存福祉センターについて今後どうするかを検討するのであって、恵那市全体の社会福祉をどうするかを議論する場ではない。市内の福祉センターを見学し、管外の施設も見て、どう考えていくかを議論するものとする。

そのうえで、恵那市福祉センターは早急に移転、建て替えなど検討すべきであるとする。都市計画も見据え、中心拠点とした福祉センター整備が必要とする。恵南の 3 施設については、それぞれの設立経緯、施設老朽化などあるが、地域に必要な拠点であるため、今後どのように維持していくのかを、考えていく必要がある。

岩村町の高齢者福祉については、民間事業所も充実していることから、福祉センターへの依存度は大きくない。今後も民間事業所が増える可能性もある。しかし、串原等について

は、民間事業所が新たに開設され運営していくことは困難であるため、既存施設を維持していくことが重要と考える。

■ 委員

第 1 回の委員会で意見した、福祉のあり方についてと、委員の今の意見を伺って感じることは、福祉を受ける方々が地域によって不公平感が生じてはいけないという点。

■ 委員

私の意見は、設置要綱に基づく意見であり、委員の意見も理解できるが、本委員会で決定すべきでないのでは。

■ 委員長

この委員会の役割について、事務局に説明を求める。

■ 事務局

本委員会は、既存施設の今後について検討するものでもあり、検討するうえで恵那市の福祉の将来についても検討していただきたい。

■ 委員長

委員の意見のとおり、恵那市の将来構想は検討が必要。ただし、全体の構想を提案する場はこの場ではないと考える。それは、令和 9 年度計画見直しの介護保険事業計画、老人福祉計画等に盛り込んでいく必要がある。

■ 事務局

地域福祉計画の見直しが令和 9 年度にある。福祉センターに関しても本計画の中で継続的な検討事項として扱いたい。本委員会でいただいた恵那市の福祉に関する意見は、同計画に反映していきたいと考えている。それを踏まえ、委員の意見のとおり、この場では喫緊課題である既存施設について、検討していきたい。

■ 委員長

恵那市の福祉全体に関する意見も、本委員会で伺い、関係各計画に意見内容を提出し、それぞれの計画策定で検討していくこととしたい。

■副委員長

恵那市の福祉をどうしていくのか検討しないと、福祉センターに求める機能面が見えてこないと考える。そのため、福祉計画が先に必要なのでは。既存施設の検討ばかりしては意味を呈さないのでは。

■事務局

地域福祉計画に位置付けられていないわけではない。

6 地域について更に検討をし、今後の地域福祉計画に位置付けていきたい。

■委員

委員会の方向性を示していただきたい。

■事務局

了解した。

■副委員長

旧恵那地区の現状把握が必要。また、先ほど意見にあった公平性についても、検討する必要がある。そのため、方向性を示していただけると検討しやすい。

■委員長

次回委員会にて、地域福祉計画などを踏まえた、市全体の福祉について資料をまとめていただきたい。

■事務局

了解した。

■委員長

全体の中で大井町の福祉センターをどうしていくかを検討することで良いか。市全体の福祉についても各委員から意見はいただいきたい。

■副委員長

中心となる大井町の福祉センターについて、立て替える場合、どんな機能が必要かということか。

■ 事務局

管外施設を視察したうえで、恵那市福祉センターに求める機能についても、各委員から意見していただきたい。

■ 委員

恵那市は面積が狭いため、駐車場の確保、災害時の高齢者への安全配慮を検討していただきたい。

■ 委員長

福祉センターの場所を移転することも可能か。

■ 事務局

可能である。求める機能が多くなれば、既存施設の場所では対応できない。
移転となれば財源等が必要となるが、これは別問題として議論していただきたい。

■ 委員長

自由に構造をしてよいと解釈できるが。

■ 事務局

各委員の意見をすべて反映できるものではないが、意見をまとめ将来ビジョンを策定していきたい。

■ 委員

福祉センターは、委員長資料にあるとおり4つの機能が最低必要であるということを共有していかないと議論が進まないと考える。

また、社会福祉協議会では、障がい福祉に関する相談がとても多い。ひきこもり、発達障害など多様であるが、それらすべてを1つの福祉センターに集約する必要はないと考える。

■ 委員

今日、見学した施設の中で、人口減少が進む中で利用率が少ないもの、たとえば串原福祉センターの一般風呂については、見直す必要があると感じた。また、文化センターに併設のこども元気プラザについて、こども関係の事業を集約してはどうか。文化センター周辺に施設集約するなど検討してはどうか。

■ 委員長

各委員の意見は、これからの会議の基本的な発言が続いている。

次回委員会では、事務局より基本方針を示していただき、各センターでこういった機能が必要なかを整理できると良い。

たとえば、串原福祉センターには一般浴はいらないという発言があった。また、会議室の部屋数も見直した方が良いとの意見もあった。

関市、瑞穂市の施設視察から、良いと感じた機能面等について発言をいただきたい。

■ 委員

たくさんありましたが、工作室があると障がい者や高齢者が陶芸活動を行うことで、指先運動になるので良いと感じた。

■ 委員長

工作室は利用頻度が多くないため、設備のみで部屋は併用する方法が良い。

■ 委員

多機能的に利用できる部屋で良い。

■ 委員

福祉センターって何かという疑問がある。何と何を盛り込んだら福祉センターと呼ぶのか。

福祉センターが無い地域は、無くてもやっていけている。それは福祉センターの機能を代替となるところが担っていることがわかった。

視察の件では、様々な機能を盛り込むと、確かに人はたくさん集まり利用度は上がるが、全部を管理するのはとても大変である。NPO団体など外部団体、担当部署以外が入ることで一層調整が大変であると率直に感じた。しかし、機能が充実することで利用度が上がることは確かである。福祉の講習等を行った際に、疑問箇所を図書館で関連書類を調べることができることは、とても便利と感じた。

費用対効果について、大きな資金を投資して行すべきなのか、これからの恵那市の将来はどうなのか、最低限に絞った福祉センターのあり方、何と何が必要なのかを考えていけたらよいのでは。

明智福祉センターについて、老朽化が進んでおり建て替えの声も聞こえてくるが、大規模改修で必要箇所のみ対応する方法もある。恵那市福祉センターは、大規模改修では無理であるため、同じ機能を求めるのであれば、別の場所で建て替えと考える。建て替えの際に、

関市のアリーナ的な機能が必要であれば槇ヶ根で、文化センターのホールが必要であれば、今の文化センター付近に作るという形になるのかと、また、そこまで必要なのかと考えることが多々ある。まとまった考えはないが、それぞれに課題は多いと思う。老朽化している施設をどうにかしたいという事が事務局の考えではないか。焦点を絞った議論が必要ではないか。

■ 委員

視察で感じたことは、新しい施設とした場合は、避難所としての位置付けが重要である。

関市、瑞穂市を見て、入口付近に何も使用していない広いスペースがあった。このようなスペースがあれば、普段は子どもたちの遊び場として利用し、有事の際は避難所への活用ができるのではと感じた。

■ 委員

福祉センターは社会福祉協議会が指定管理を受けているが、将来的に社会福祉協議会が指定管理を受けることとなるのか。建物は市の所有で、その中に社会福祉協議会が入ることとなるのか。

■ 事務局

現段階では、ご回答致しかねます。

■ 委員

現在、社会福祉協議会が指定管理を受けているため、社会福祉協議会からの意見もいけると良い。

■ 社会福祉協議会

社会福祉協議会は、市内 4 箇所の福祉センターの指定管理を受け管理を行っている。委員意見にありましたが、それぞれ地域性を持った機能が必要であり、すべてのセンターに同じ機能を持つ必要はないと考える。福祉センターとは、子どもから高齢者、障がい者が交流できる場としての機能が中心である。さらに機能面を追加して、利用しやすく集まりやすい環境を整えることが大切である。また、避難所としての機能、災害ボランティアセンターとしての機能は必ず必要となる。

恵那市福祉センターの 1 番の課題は、駐車場である。恵那市では自動車移動が当たり前で、来館者のほとんどが自動車であるが、駐車場が狭く、高齢者の事故が発生している。このことから、広い駐車場は安全確保のためにも必要である。

また、バリアフリー、ユニバーサルデザインといった誰でも使用できるものは必要である。先ほどの意見にあった1階の広いスペースについても考えていかななくてはならない。

もう1点は、老朽化によって、機能も故障する。施設が広ければ広いほど大掛かりな工事が必要となり、修繕が追い付かない。そのため、小規模に機能を分けることが後々の管理のし易さに繋がる。

■ 委員長

3箇所の福祉センターについて、財政的にどうか。

■ 社会福祉協議会

指定管理料により運営を行っているが、物価高騰により状況は厳しい。人件費についても最低賃金の上昇、業務委託料の高騰、燃料費の高騰により今後さらに厳しくなることが予想される。

■ 委員長

財政的には介護報酬と市からの収入で運営しているのか。

■ 社会福祉協議会

介護保険事業、障がい福祉事業は独立して事業運営している。福祉センターに関しては、指定管理料のみで運営している。

■ 委員長

健全経営できているということか。

■ 社会福祉協議会

厳しい状況ではある。

■ 委員長

瑞穂市、関市を視察して、私が感じたことは、時代も反映して、子育てに関する機能が充実していたという事。

〔各委員へ意見を求める〕

■ 委員長

次回委員会では、市の全体構想がどうなっているかを事務局に説明していただきたい。

■ 事務局

構想については、本委員会で決めていただきたい。

■ 委員長

地域福祉計画の中で示されている恵那市の福祉の将来像を示していただきたい。

■ 事務局

了解しました。

■ 委員長

事務局から示していただき、それを踏まえ各委員で意見を出していただきたい。

恵那市福祉センターと恵南の福祉センターでどんな機能が必要なのかを議論することで良いか。

■ 副委員長

良いと思う。委員の意見のとおり恵那市福祉センターにどんな機能が必要なのかを議論し、恵南の福祉センターについて、どんな機能が必要なのか議論していけたら良い。

まずは恵那市福祉センターから進めていきたい。

■ 委員長

今のご意見のように進めることで良いか。他に意見が無ければ終了とする。

■ 事務局

次回は 11 月 21 日となります。

4. 閉会

■ 副委員長

本日は、視察ご苦労様でした。今回の会議のうやむやとしていた部分について、方向付けができたのではないかと思います。本日はこれを持って閉会とする。